

# 令和3年度 第2回北海道 Society5.0 推進会議 「データ利活用ワーキンググループ」 開催概要

## 1 日 時

令和3年9月8日（水）13:30 ～ 15:30

## 2 実施場所

Web 会議

## 3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

## 4 議 題

別添「次第」のとおり

## 5 議 事

### (1) 議事1 本日の会議について

・事務局（北海道）から説明（資料2）

### (2) 議事2 第1回WGでの意見等の取りまとめ結果とこれからのWGについて

・事務局（北海道）から説明（資料3）

<民間のデータ利活用について>

- 民間は営利企業なので、持っているデータを囲い込みたいというのは当然。公開するインセンティブが無いと難しい。
- インセンティブとは、知名度向上やコミュニティの活性化、宣伝効果などになる。
- 人流データの例のように、行政が分析する中で、民間データを使って、会社の名前が出ると宣伝効果大きい。
- バスや鉄道の時刻表などは公共性も高いので、公開することで新しいサービスが生まれ利用者も増える可能性もある。
- データを公開するだけでは無く活用し課題を解決していく仕組み作りが、民間が取り組むべきこと。
- HODA としてはマスターデータの整備をしっかり作っていく仕組み、変換ツールなどを作ってオープンソースで公開する等が必要と考えている。
- 一つの成功事例みたいなものを作る活動を行っても良いのではないか。
- 民間で言うとデータは今資産。公開への導き方を行政やHODA 含めてやっていくべき。
- データのサンプル例をもっと出して、導いてあげる仕組みというのはあってもいい。
- 北海道をデータの発信基地にするのであれば、一般市民も巻き込んで行うべきではないか。
- データを出していくのが先、利用は後から考えるという順番も考えた方が良い。
- 民間のデータも重要だが、どうやって集めるかが課題。Twitter などの SNS をソーシャルセンシングして情報を集める方法もある。
- CSV 形式でデータをアップロードすると API に自動で繋がるような簡単な仕組みを作るというのも一つの手。
- 民間がデータを公開して何かメリットがあるかというのは割と大きな課題。「Kaggle」や「SIGNATE」（企業や研究者がデータを投稿し、役に立つ機械学習モデルを作った人に賞金を出すサービス）は、データを出す企業も参加する学生も WINWIN でうまくまわっている。

- 国立情報学研究所（NII）がデータセットは割とまとまっており、Yahoo、楽天、ニコニコ、リクルートなど企業のデータが出ている。
- 「ヒーローズリーグ」というイベントでは、色々な企業や自治体が API を公開していて、何か作ってくださいというコンテストを行い、データに対してフィードバックをもらうというのが企業のメリットとなっている。
- LINE も API を多数公開しているが、サービスを作ってもらって、他のチャットツールと差別化できる。
- データを使ってもらうことでメリットが得られるのであれば、使ってくれる人をサポートするという体制、そういう形のエコシステム、サイクルみたいなものが生まれるとうまくまわっていく。

<ワーキングの取組について>

- 令和3年度は、先につなげるためのしっかりとした議論することと、同時に走っているハッカソンなどがあるので、データに対する理解を啓蒙していく。
- 令和4年度は、道庁の色々な取組に繋がっていくので、道が持っているデータの棚卸しを行い、どういうデータが出せるかをしっかり理解して調査し、ワーキンググループの提言が繋がっていくと言うことが重要。
- ロールモデルというか、事例を作り、実際にそれを使ってわかりやすく説明していくことにつなげたい。
- 長期的には、データをどうやって公開するのか、どうやって作るかを検討する必要あり。

### (3) 議事3 意見交換

- ・事務局（北海道）から説明（資料4）

<道のデータ公開について>

- 道の HP の新型コロナの情報も毎日 PDF をページに貼っている。こんな作業も大変だと思う。（PDF を CSV に変換しオープンデータとして公開している）
- データが一元管理されていて、こういうデータを出すところをきちんと作られていれば、毎日データベースを書き換えると自動でアップデートできる仕組みができる。
- 30年後50年後の子供孫世代に今の作業と同じことをやらせるとかということ、あり得ない。

<令和4年度事業計画について>

- データ棚卸しは、これを一つの事例として、データ作成の手引きを作るところを視野に入れていると思う。幅広く展開できるような何か典型的なデータで、なおかつ民間ニーズの高いものを選ぶことができれば良い。
- はじめにデータを作るところから、データを公開するまでを一元的につなげるようなれば良い。
- 自分たちでシステムを作らなくても、データアカデミーの中で手軽にデータが成形されるようなケーススタディみたいなものができれば。
- きれいなデータを作ると言ってもスキルや知識が無いと価値あるデータに気づかない。そのためにはデータアカデミーは有効。
- データアカデミーに参加する職員は、熱意のある職員だけで無く、年齢、役職を縛らずに参加できると良い。
- 小さい自治体は一人が複数の業務兼務し、オープンデータにも時間を割きたくない。簡単に

入力できるフォームでデータベースができて、CSV で正しい形で出力されるものがあれば使いやすい。

- オープンデータを作る際に、どこの自治体も同じようなデータを入力するので、どこの自治体のデータも見られるデータベースがあれば良いと思う。
- 自治体のデータがデータベース化されることで、職員の手間が減るようにならないと絶対に進んでいかない。根本的な考え方はそういうことで進めていかないと多分普及は無理。
- データから生まれた成功事例、成功体験が何らかの形で職員に見えると、データの利活用や公開を推進する気持ちが生まれる。データアカデミーでも成功事例を発表したい。
- データを作成する手間も税金。お金をかけてこんなに無駄なことをやっているとしたら市民に公開するべき。そうすると業務改革しなきゃいけないと思うのでは。そこがスタート地点。
- 機械判読可能なデータを増やすということが目的にならないように、この仕組みを作らなければならないということを確認に入れての方が良いのでは。
- データアカデミーの対象者は職員ではなく、議員、知事、業界団体の代表の方など、しっかりと仕組みを作っていこうとトップダウンで検討した方が、マスターデータをしっかり作っていこうとなるのではないかな。
- 行政の方がオープンデータを作るということは、今はゼロベース。行政の方には知的な作業に時間を割いていただきたい。
- データアカデミーの参加者が 50 名程度とされているが、高々 50 名程度。職員内の情報交換や配置転換も含めた属人化しない仕組み作り、だれでもわかるようなアウトプットをお願いしたい。
- 数値データだけがオープンデータになるのではなく、コンテンツ自体もオープンにしていくという大きな流れもある。うまく工夫しながら、来年度の提案につなげていただきたい。

※令和 4 年度事業計画については、全員が賛成。

#### (4) 議事 4 今後の進め方

・事務局（北海道）から説明（資料 5）

<その他>

- データ活用をアート系とつなげられないか、データ公開してもそもそも知られない。何か目立つものがあれば、ニュースになったりとか、露出が増えて存在を知ってもらえる。
- 石川県能美市では、丸谷焼の柄をオープンデータとしている。プロジェクトマップや、紙皿などを作ってイベント用に売っている。役立つデータも大事だが、同時に目立つ、楽しいこともできればと思う。